

Q11 森林の洪水を緩和する機能を治水計画に見込むべきではないのか？

A11 森林は人間生活を支える木材や燃料などの経済的な機能ばかりでなく、水の貯留や気候緩和等の環境保全機能を始め、土砂流出防止や崩壊防止など多面的な機能を有しています。

森林の洪水緩和機能については、日本学術会議答申(平成13年11月「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)」)にもあるように、中小洪水に一定の効果を有するものの、大規模な洪水時では洪水のピークを迎える前に森林土壌中の雨水貯留量が飽和状態となり、河川への流出量の低減効果は期待できません。

しかしながら、中小規模の洪水時では一定の効果が期待できることから、森林の持つ水源かん養、土砂流出防止等の機能が低下しないよう、関係機関、森林所有者、地域住民等と連携し、人工林の間伐、荒廃が進んでいる里山林の再生、急傾斜地等において防災機能を高める森林の整備に取り組みます。また、保安林・林地開発許可制度等の適切な運用による無秩序な伐採・開発行為の規制等を通じて、森林が適正に保全されるよう努めます。

イメージ図

